

平成 29 年度事業報告書

(平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

1 会員総会

(1) 平成 29 年度定時会員総会

- 1) 日時 平成 29 年 6 月 29 日(木)午後 1 時
- 2) 場所 KKR ホテル東京「朱鷺」の間 東京都千代田区大手町 1-4-1
- 3) 議事 第 1 号議案 平成 28 年度事業報告・貸借対照表・正味資産増減
計算書に関する件
第 2 号議案 平成 29 年度会費及び賛助会費の額並びに納入方法
決定に関する件
第 3 号議案 任期満了に伴う役員改選に関する件

(2) 平成 29 年度臨時会員総会(書面決議)

- 1) 書面決議日 平成 29 年 12 月 15 日
- 2) 議事 役員(理事)の補欠選任の件

2 理事会

(1) 平成 29 年度第 1 回理事会

- 1) 書面決議日 平成 29 年 6 月 7 日
- 2) 議事 第 1 号議案 平成 28 年度事業報告書・貸借対照表・正味財産増
減計算書及び関連資料の件
第 2 号議案 平成 29 年度会費及び賛助会費の額並びに納入方法
決定に関する件
第 3 号議案 任期満了に伴う役員改選に関する件

(2) 平成 29 年度第 2 回理事会

- 1) 書面決議日 平成 29 年 6 月 29 日
- 2) 議事 平成 29 年度定時会員総会上程議案の説明・審議に関する件

(3) 平成 29 年度第 3 回理事会

- 1) 日時 平成 29 年 6 月 29 日午後 1 時 50 分
- 2) 場所 KKR ホテル東京「朱鷺」の間 東京都千代田区大手町 1-4-1
- 3) 議事 役員改選に伴う会長、副会長および専務理事の選定に関する件

(4) 平成 29 年度第 4 回理事会

- 1) 書面決議日 平成 29 年 11 月 17 日
- 2) 議事 臨時会員総会の開催日時及び場所ならびに議事に付すべき事項の決定に関する件

(5) 平成 29 年度第 5 回理事会

- 1) 書面決議日 平成 29 年 12 月 15 日
- 2) 議事 役付理事(副会長)の選定に関する件

(6) 平成 29 年度第 6 回理事会

- 1) 日時 平成 30 年 3 月 1 日(木)12 時
- 2) 場所 KKR ホテル東京「朱鷺」の間 東京都千代田区大手町 1-4-1
- 3) 議事 第 1 号議案 平成 30 年度事業計画及び収支予算の承認の件
第 2 号議案 平成 30 年度定時会員総会及び理事会開催日程に関する件
- 4) 報告事項 1 平成 29 年度事業実施概要及び事業執行状況報告について
2 最近の酪農ヘルパー利用状況

3 監事監査

- (1) 日時 平成 29 年 5 月 24 日(水)午後 1 時 30 分
- (2) 場所 一般社団法人酪農ヘルパー全国協会「事務室」
(東京都千代田区内神田 2-5-3)

4 事業の概況

(1) 一般事業 (継続事業 3)

1) 酪農ヘルパー要員の確保と普及啓発活動

酪農ヘルパー要員の確保を支援するため、インターネット (ホームページ) を活用して酪農ヘルパー関連情報の提供を行うとともに、各地域の利用組合から要請あった求人募集情報を掲載した。また一般社団法人全国酪農協会が発行する全酪新報に酪農ヘルパー事業中央研究会及び酪農ヘルパーに係る記事やヘルパー募集広告を掲載するなど、広く酪農ヘルパー事業に関する広報活動を実施した。また、酪農ヘルパーへの就業啓発のため「新・農業人フェア」(7 月東京・1 月大阪・2 月東京) へ出展した。

2) 酪農ヘルパー全国協会会長表彰事業

平成 29 年 12 月 6 日に日本教育会館 (東京都千代田区一ツ橋) で開催した酪農ヘルパー事業中央研究会において、永年の功績が認められた酪農ヘルパー 18 名と酪農後継者の配偶者となった酪農ヘルパー 1 名に対して会長表彰を行った。

3) 会員団体等との事業連携

会員団体等が主催する研修会や会議等に職員を派遣し、酪農ヘルパー事業に関わる情勢等に関する報告説明や要員確保等についての意見交換を行った。

- ① 7月13日
長野県本部酪農ヘルパー協議会（農協及び利用組合 40名）
- ② 11月10日
農林水産省 中央畜産技術研修会（受講者 50名）
- ③ 11月28日
山形県酪農ヘルパー技術向上研修会（参加者 16名）
- ④ 1月30日
岩手県酪農ヘルパー利用組合長・事務局合同研修会（参加 26名）
- ⑤ 2月7日
新潟県酪農ヘルパー技術研修会（参加者 16名）
- ⑥ 2月8日
関東農政局セミナー（第3回酪（楽）農のすすめ）（参加者 68名）

4) 酪農ヘルパーの養成(中級ヘルパー)

酪農ヘルパー専門技術養成研修のうち3年以上の経験を有する酪農ヘルパーを対象に、スキルアップ研修として「中級者研修(1週間コース)」を北海道中央会 JA カレッジで開催(受講者9名)した。

また、酪農ヘルパー就職希望者で酪農未経験者を対象にキープ協会高冷地実験農場の受入協力を得て、5名が酪農体験実習を受講した。

5) 傷害時補償制度の推進

臨時ヘルパーの出役中(往復途上含む)の傷害に対応するため「臨時酪農ヘルパー傷害保険(普通傷害)」の加入手続き及び促進を図った。

参加 都道府県数	利用組合数	加入ヘルパー 人数	保険料 総額(千円)
39	158	819	2,209

6) 傷害保険料の補助(協会主催)

- ① 酪農ヘルパー専門技術養成研修期間中(往復含む)の傷害及び損害に対応するため「国内旅行傷害保険」の保険料を全額負担した。

研修開催回数	研修者数	保険料
10回(うち中級1回)	116名	76,806円

- ② 全国協会が行う、酪農未経験者の酪農体験実習期間中(往復含む)の傷害及び損害に対応するため「国内旅行傷害保険」の保険料を全額負担した。

体験実習者数	予定員数	保険料
5名	20名	4,704円

(2) 酪農経営支援総合対策事業「酪農経営安定化支援ヘルパー事業」

(独立行政法人農畜産振興機構 公募事業)

(継続事業1)

酪農ヘルパー利用組合の強化、酪農ヘルパー要員の雇用環境の整備等の酪農ヘルパー制度を総合的に推進し、ゆとりある持続性の高い酪農経営に資するため、計画的に実施した。

1) 酪農ヘルパー利用実態調査の実施

酪農ヘルパー制度の充実を図ることを目的として、平成29年8月1日現在の酪農ヘルパー利用組合の概況と平成28年度酪農ヘルパー利用実績について調査を実施した。その結果を「酪農ヘルパー利用に関する資料(冊子)」として3月に発刊しヘルパー事業推進のため活用する。

2) 酪農ヘルパー事業の広報

当協会ホームページでは「酪農ヘルパー」に関する様々なコンテンツを用意しており、酪農ヘルパーの具体的な仕事内容や就職するまでの流れなどを紹介している。また、各利用組合での「酪農ヘルパー要員の確保」を支援するため、ヘルパー募集情報及び今年度(29年度)から開始した「学生インターンシップ」の受入等の情報発信を積極的に実施した。

3) 酪農ヘルパー専門技術養成研修(初級)の実施

酪農家の作業代行を責任もって担うため、また新規就農に役立てるため、酪農ヘルパーとして必要な酪農の基礎知識や技術の習得として「酪農情勢・搾乳技術・コミュニケーション力・牧草・繁殖生理・哺育育成技術・疾病及び防疫・飼養環境・生乳流通等」について研修を実施した。

※専門技術養成研修は中級者を含めて 10 回・116 名が受講した。

開催場所	北海道	宮城県	福島県	岡山県	合計
初任者研修 I (2 週間)	<u>2 回</u> 14 名・16 名	<u>1 回</u> 6 名		<u>1 回</u> 7 名	<u>4 回</u> 43 名
初任者研修 II (1 週間)	<u>4 回</u> 26 名・15 名・10 名・5 名		<u>1 回</u> 8 名		<u>5 回</u> 64 名
中級者研修 (1 週間)	<u>1 回</u> 9 名				<u>1 回</u> 9 名
受講者計	96 名	6 名	8 名	7 名	116 名

【酪農ヘルパー技能養成研修委託団体】

一財) 北海道農業協同組合学校(北海道江別市)

独法) 北海道立総合研究機構 新得畜産試験場(北海道新得町)

独法) 北海道立総合研究機構 根釧農業試験場(北海道中標津町)

ホクレン農業協同組合連合会 農業総合研究所 訓子府実証農場(北海道訓子府町)

一財) 蔵王酪農センター(宮城県蔵王町)

全国酪農業協同組合連合会 酪農技術研究所(福島県矢吹町)

公財) 中国四国酪農大学校(岡山県真庭市蒜山)

【体験実習受入団体】

公財) キープ協会高冷地実験農場(山梨県北斗市)

JA 全農長野 八ヶ岳牧場(長野県南牧村)

(順不同)

4) 優良事例発表会等の開催

酪農ヘルパー事業の充実と優良事例の普及啓発を図るため酪農ヘルパー事業中央研究会を平成 29 年 12 月 6 日に日本教育会館(東京都千代田区)で開催した。

基調講演として「生乳生産に係る衛生管理の重要性について(一般社団法人中央酪農会議業務部長 寺田繁氏)」、事例発表は「兵庫県における広域化の取り組みについて(兵庫県酪農ヘルパー利用組合 組合長 波多野省三氏)」「北海道酪農ヘルパー事業推進協議会における学生インターンシップの取組について(北海道農業協同組合中央会農政部課長 林亮年氏)」「北の国から新規就農レポート(元酪農ヘルパー 清水秀人、香理夫妻)」の 5 氏から報告のあと、参加者らと意見交換が行われた。なお、当日は、国、独立行政法人農畜産業振興機構、中央団体、都道府県団体、利用組合、酪農ヘルパー等約 100 名が参加した。

5) 学生インターンシップの実施

酪農ヘルパー要員不足の要因として、酪農ヘルパーという職業への理解が必要との観点から、今年度（29年度）より学生インターンシップを全国的に取り組み始めた。29年度は都道府県型として8道県団体が取り組み、全国型として全国協会が主催して大学1～2年生を対象に独立行政法人家畜改良センター岩手牧場（8月に4名）及新冠牧場（9月に5名）の協力を得て実施した。

(3) 酪農経営支援組織経営向上推進事業(平成28年～30年度事業)

(日本中央競馬会 畜産振興事業 公募事業) (継続事業2-①)

酪農経営を支える酪農ヘルパーの安定的な出役を確保するため、ヘルパー要員の確保定着や労務環境の課題に取り組んでいる先進的事例調査を実施した。また、利用組合の経営向上への取組や手法について29年度は利用組合の合併に詳しい福島県中酪農ヘルパー利用組合の佐藤弘栄組合長を招いて経営セミナーを計画通り実施した。

(平成29年度の取組み)

(活動実績)

項目	実施地域	調査団体(参加者)	実施時期
事業推進委員会	東京都	事業推進委員	7月
			3月
優良事例調査	兵庫県	兵庫県酪農ヘルパー利用組合	9月
	北海道	天塩町農業協同組合	10月
	福岡県	幌延町酪農ヘルパー利用組合	11月
		筑後酪農ヘルパー利用組合	
経営向上セミナー	盛岡会場	17名	10月
	博多会場	17名	10月
	大阪会場	13名	1月
	東京会場	10名	2月

(4) 酪農労働力セーフティネット強化事業(平成29年～30年度事業)

(日本中央競馬会 畜産振興事業 公募事業) (継続事業2-②)

傷病等による離農抑制のため、酪農家や利用組合を対象に傷病利用を中心にヘルパー利用の実態に係るアンケート及び国内外の現地調査を実施し互助組織加入促進や保険制度設計等の互助制度強化策について検討する事業で、計画通りに実施した。

(平成 29 年度の取組み)

(活動実績)

項目	実施地域・対象	調査団体(参加者)	実施時期
事業推進委員会	東京都	事業推進委員 4 名	7 月 3 月
傷病時利用体制強化検討会	東京都	事業推進委員他 5 名 道県団体実務者 6 名	7 月
国内事例調査	北海道	訓子府町酪農ヘルパー利用組合	10 月
	岩手県	士幌町酪農ヘルパー有限責任事業組合	11 月
	熊本県	葛巻町酪農ヘルパー利用組合	
	鹿児島県	いわて平泉酪農ヘルパー利用組合 熊本県酪農ヘルパー利用組合 デーリィサポートかごしま	2 月
国外事例調査	ドイツ デンマーク	調査員 2 名・事務局 1 名	1 月
アンケート調査・分析	酪農家 利用組合	酪農家 約 10,383 戸 利用組合等 291 団体	9 月

5 会員の動向 (平成 29 年度)

区分	会員			賛助会員
	中央団体	都道府県団体	合計	
期首	13	44	57	12
期末	13	44	57	12
増減	0	0	0	0

6 職員の動向 (平成 29 年度)

区分	職員(受入出向含む)	臨時職員	合計
期首	5	1	6
期末	5	1	6
増減	0	0	0